

エを併設したんです。その時から、キルトサークル縫夢は自宅での開催となりました。会員数は30人程度。「私は特にどなたかの門下に入っていたわけではなく、ただ好きでやっていただけのこと。自分で楽しめれば十分。コンテストに応募するなんて、別世界の話だと思っていました」と振り返る。

ところが、2014年、三種町で開催された第29回国民文化祭「あきた2014キルトフェスティバル」にみたねパッチワークコンクール」にアドバイザーとして関わった。かつてパッチワークでお世話になった先生から、武田さんのサークルから作品を出品してくれないかと打診を受けた。「みんなを誘ったんですが、締め切りまで時間がなかったこともあり、作品が集まらなくて。それだと先生に申し訳ないので「私が代表して恥をかこう」と腹をくくりました」。作品名は、「紬つないで、花のトーテンポール」。全て和布を使ったステンドグラス技法で、大好きな花をイメージして作り上げた。「時間がなかった分、自分にできることだけを精いっぱいやろうと思ったんです。その時の私にあったのは、ステンドグラス技法とお花と、皆さんから頂いた皆さんの和布。それを全て掛け合わせて完成させた作品です」

作品はグランプリを受賞し、著名な作家からの品評も届いた。「憧れの先生から、『この作品はすごくいいからアレンジして出してみたら』と言われて……」。せっかくだからと、国際コンテストに応募することに。最初はヒューストンのキルトフェ



「紬つないで、花のトーテンポール」  
準グランプリ受賞作品の元となった作品



「紬つないで、花のビッグ・ウェーブ」  
第18回東京国際キルトフェスティバル準グランプリ受賞作品

キルトサークル・手作り工房  
「縫夢」主宰

## 武田 京子 さん

【プロフィール】  
能代市に生まれ育つ。33歳の時地元のパッチワーク教室に通い始め、36歳で自主学習グループとしてキルトサークルを立ち上げる。それから10年後に自宅にアトリエを併設し、キルトサークル「縫夢」を主宰。現在に至る

取材協力  
カフェレストラン「ブルーベリー」  
能代市河川前山40-5  
TEL.0185-53-3946  
営業時間/11:00~15:00、17:00~21:00  
(ラストオーダー20:00)  
定休日/月曜日  
※武田さんの作品を不定期で展示。  
詳しくはお問い合わせを。

ステイバルに応募した。その後、第18回東京国際キルトフェスティバルで準グランプリを受賞したのは、「紬つないで、花のビッグ・ウェーブ」。以前の作品「トーテンポール」を元に、大好きな葛飾北斎の波をイメージして完成させたものだった。「受賞の連絡を頂いたときは、もう、びっくり」。審査員からは「他にはない、個性的な作風」と評価されたのだという。「何にも染まっていない作品だ、とおっしゃっていただけなんです。どの先生にも習いに行っていないことをコンプレックスに思っていたけれど、そんな私を認めて下さったことが嬉しかったですね」。

今後は、「ありがたい事に次回作の依頼がありますので、しばらくは制作に専念することになりそうです。もう少し落ち着いたら、気心の知れた友達と一緒にゆつくりとキルトを楽しみたいですね」と笑顔で話してくれた。穏やかな雰囲気身をまとう武田さんが手がける力強い作品が、これからも楽しみです。



キルトがくれたもの、  
それは自信と生きがい。

取材先として招かれたのは、能代市の閑静な住宅街にあるカフェレストラン「ブルーベリー」。海外の海辺にありそうな外観からすでに、居心地のよさが伝わってくる。扉を開けると、笑顔のすてきなオーナーと武田さんが迎え入れてくれた。ウッド調の店内に飾られているのは、武田さんの作品。「冬の間はここでキルト展を開いてくれるんです。すてきなカフェに置いて下さって、うれしです」と、はにかむように教えてくれた。武田さんは、第18回国際キルトフェスティバルで準グランプリを受賞。普段は能代市内にある自宅兼アトリエでキルトサークル「縫夢」を主宰している。

武田さんがキルトを始めたきっかけは、ママ友達のサークル活動だった。「娘が幼稚園に通っていた頃、地域のママさんたちと『おやこ劇場』という取り組みをやっている。私も他のママさんたちも、みんな子供たちのために一生懸命。それが少し落ち着いた頃、『私たちも自分たちのために何かしたいよね』って話になったんです。その頃は少しだけパッチワークの経験があったので、仲間内なら、と思って教え始めました」。きちんと自分たちの趣味に向き合える時間。それは、とても贅沢で充実したものだったという。「10年ほど前、ちょうど自宅を改装するタイミングでアトリ